

恩師を越える！

今の私を支えてくださり、今の自分があるのは、紛れもなく出会ってきた先生方のお陰です。小・中・高の学校生活の中で、何十人、何百人の先生方と出会い、同じ時間を共有してきました。その出会うことができた恩師の中で、私には特別な存在の先生が二名います。それは、中学校、高校で所属していた野球部の顧問の先生です。お二人の世代は違いますが、共通しているものがありました。それは、教員であり、監督という存在であったということです。時には、先生として接して頂き、その一方では勝負事の楽しさや厳しさを教えて頂き、そしてなんとと言っても私に野球というスポーツを大好きにさせてくださり、野球を生涯スポーツとさせてくださったことです。私は本当に感謝しています。自分に夢を与えてくれたから…。もちろんお二人とは今でも関係は続いています。人生の岐路に立った時には、今でも助けてくださり、声をかけてくださいます。これからも、一生涯、私が死ぬまで先生方は恩師であり続けます。

話は変わりますが、先日このような場面がありました。高校時代のその恩師は、現在退職され、某社会人チームの指導をされています。私が現役時代、いつも背中を見ながらノックを受けていたあの監督がノッカーではなく、なんとノッカーにボール渡しをされているのです。私は、ハッとさせられました。この姿勢だな、この生き方だなと。今、その恩師が辿ってきた道に私は挑もうとしています。こんなことを言うと、叱られるのが目に浮かびます。ですが、言わせてください。いつか先生を超えたい。

江谷 星哉

(一般)